

介護ヘルパー情報連携システム

1. 概要

1-1 背景

2020年から2040年に向けて、介護サービスを必要とする要介護者が約4割増えることが予測されている。一方、労働力人口は減少を続け、介護サービスを提供する介護事業者の人手不足が深刻化している。この対策として、業務の効率化が課題となっている。

このため、利用者に介護サービスを提供するヘルパー（介護ヘルパー）と、ヘルパーに指示・指導を行う管理者（サービス提供責任者）の間の情報伝達にICTを活用して書類から電子化に切り替え、業務を効率化して人手を補う動きが出始めている。

住電通信エンジニアリング(株)は約20年に亘り、ヘルパーの活動実績に基づく対価を計算して請求先に請求するための介護システム（請求システム）“ケアタイム”を通じて介護事業者の業務に携わってきた。

今回、管理者とヘルパーの業務の効率化を図り、更に、両者の相互情報伝達をオンタイム化して心のつながりを密にし、質の高いサービスを利用者に提供する介護事業者の想いを実現するシステムとして、介護システムとデータ連携可能なWEBシステムを開発し、介護事業者にサブスクリプションサービスとして提供を開始した。

リプションサービスとして提供を開始した。

1-2 介護事業者の業務運用

介護事業者では、ヘルパーと管理者が連携してサービスを提供している。管理者がヘルパーに伝達する活動予定や指示・連絡事項、また、ヘルパーが管理者に伝達する活動実績や報告事項は、書類を通じて行われている。このため、書類の印刷や発送、返送が必要なほか、ヘルパー対価を計算して負担先に請求するため、書類に記入された活動実績等のデータを介護システムに入力する必要がある（図1）。そして、これらが月末月初に集中し、管理者とヘルパーの負担になっている。

1-3 介護ヘルパー情報連携システム概要

介護ヘルパー情報連携システム（本システム）により管理者とヘルパー間をオンタイムに情報伝達できるため、書類の印刷、発送・返送、データの入力等が不要なほか、月末月初の負荷集中を分散することができる。介護システムからの活動予定や連絡事項等は電子データのままヘルパーのスマートフォンに伝達され、ヘルパーは任意の場所や時刻に、自身の活動予定、連絡事項等を閲覧できる。また、ヘルパーが文字や音声で入力した自身の活動実績や報告事項等はオンタイムで管理者側のPCへ伝達される。管理者

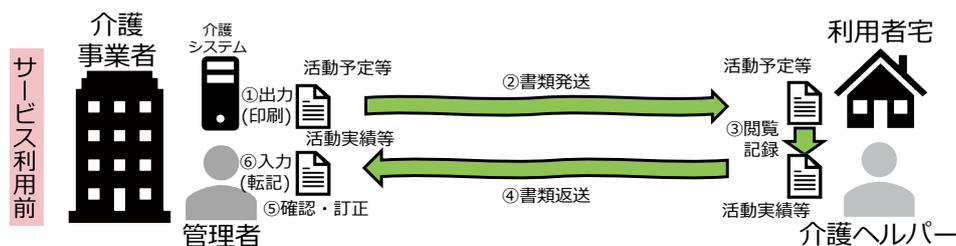


図1 介護事業者の運用（サービス利用前）

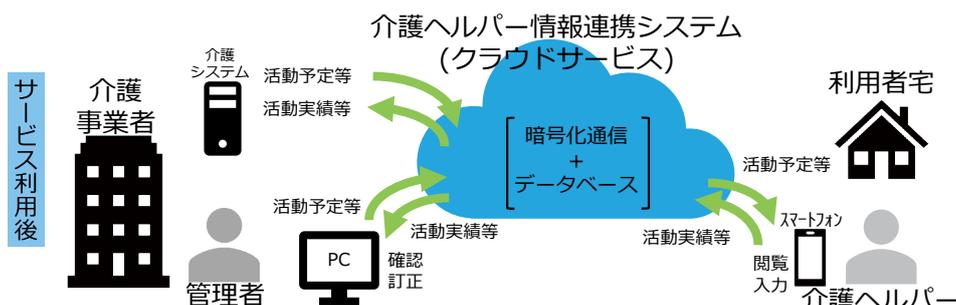


図2 介護事業者の運用（サービス利用後）

はヘルパーからの活動実績や報告事項等を確認できる。また、必要な場合に編集（訂正）でき、これら情報は介護システムに反映される（図2、表1）。

表1 システム諸元

項目	概要
管理者用PC	・Windows、Microsoft Edge
ヘルパー用端末	・Androidスマートフォン
サーバ	・クラウド
対応サービス	・介護保険訪問系サービス ・障害者総合支援法訪問系サービス ・市委託事業訪問系サービス ・介護事業者独自訪問系サービス
セキュリティ	・暗号化データ伝送 ・データベース暗号化（利用者名、活動予定・実績、指示・連絡・報告事項等） ・PCおよび端末への証明書設定（アクセス制限）
利用者識別	・QRコード（活動開始、終了時刻認識）
入力	・文字および音声

2. 特 長

2-1 シンプルな操作性のウィンドウ構成

(1) 管理者（PC）

管理者はヘルパーの活動予定や指示・連絡事項の閲覧状況、活動開始および終了状況、活動予定と活動実績の差異の有無を一覧形式で把握できる。また、一覧でクリックした活動に対して、各々の詳細を閲覧、編集できる。これら多くの閲覧、編集項目を階層の深い複数のウィンドウ構成にすることなく、一覧と閲覧、編集のウィンドウを行き来する浅い単一ウィンドウのシンプルな階層構成としている。

(2) ヘルパー（スマートフォン）

ヘルパーはスマートフォンに不慣れな方でも容易に操作できる構成としている。スマートフォンには予め活動予定通知メールが送信され、そこに記載されているURLをタップすると活動予定を一覧形式で閲覧できる。また、一覧でタップした活動に対して、活動予定、指示・連絡事項を閲覧、活動実績、報告事項を入力できる。これら多くの閲覧、入力項目を階層の深い複数のウィンドウ構成にすることなく、一覧から閲覧、入力のウィンドウに移り、閲覧、入力を上下スクロールで行える浅い単一ウィンドウのシンプルな階層構成としており、ヘルパーが迷うことなく操作できる。

2-2 管理者とヘルパー間のオンタイム情報伝達

管理者とヘルパーの間の情報伝達状況を表示する機能を有しており、管理者はヘルパーが指示・連絡事項を閲覧したこと、ヘルパーが活動を開始および終了したこと、ヘルパーからの報告事項の有無とその内容をオンタイムに把握できる。また、ヘルパーは活動の開始および終了、報告事項を管理者にオンタイムに伝達できる。

電子化によりこれらの情報を管理者とその利用者を担当

する全てのヘルパーが共有でき、サービスの質の向上に役立てることができる。

なお、情報伝達する際のデータを最小限に絞り込むことで、ヘルパー1,000人以上の規模の介護事業者での運用を可能とした。

2-3 介護システムとのデータ連携

本システムとケアタイム（介護システム）はデータ連携しており、利用者の氏名や活動予定等の情報をケアタイムから本システムに提供される。また、本システムへ入力した活動実績等はケアタイムへ随時提供され、管理者は月末月初に集中してケアタイムに活動実績を入力する必要がない。

本システムは介護システムとデータ連携するためのインタフェースを備えており、インタフェースを合わせることにより他社の介護システムともデータ連携が可能である。

今後も住電通信エンジニアリング(株)は介護事業者の明日への取り組みに貢献する。

- ・Windows、Microsoft Edgeは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- ・Androidは、米国Google Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。
- ・ケアタイムは住電通信エンジニアリング(株)の登録商標です。

〔住電通信エンジニアリング(株) 045-825-6111〕